

3. 平成30年7月豪雨／その他の復興支援等に関する活動

2018年は、6月に発災した大阪北部地震から立て続けに、平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震などが発災。そして、台風が29個も発生し、激甚災害指定を受ける地域が多発するなど、身近に自然災害が頻発する年となりました。

ボランティア・NPO 活動センターでは、迅速にこれらの災害ボランティアの情報収集に努め、活動を希望する学生に対し情報提供を行うと共に、活動に際して必要な鉄板入り長靴やヘルメット等の貸出及び、安全に活動するためのレクチャーを活動希望の学生に対して随時実施しました。また、学生から学内での義捐金活動に取り組みたいとの相談を受け、関係部署と協議のうえ、活動に協力しました。

また、京都市・大津市の災害ボランティアセンターの災害ボランティア募集の広報協力や豪雨災害で被災した岡山県倉敷市真備町でのボランティア活動も行いました。

事業名	平成30年7月豪雨災害被災者支援のための募金活動
実施日／場所	2018年7月19日（木）～7月27日（金） ※募金箱の設置：2018年7月19日（木）～8月6日（月）
場 所	深草・大宮・瀬田の各キャンパス内
実施主体／運営	龍谷大学／ボランティア・NPO 活動センター／宗教部
参加人数	募金活動を行った学生：のべ179名

1. 経緯・目的

本学には平成30年7月豪雨で被災した地域出身の学生が多数在籍しています。複数の学生から被災した人たちのために募金活動を行いたいとの相談がボランティア・NPO 活動センターと、学生部、宗教部に寄せられました。

それらの学生と面談し、彼らの要望に基づいて、3部署間で話し合いを行うと共に、学生スタッフに協力を呼びかけました。その結果、被災者救援のための募金活動に協力することを決め、学友会中央執行委員会と学生スタッフが中心となって「平成30年7月豪雨に対する義捐金活動学生有志の会」（以下、有志の会）を結成し、



募金活動に取り組むことになり、ボランティア・NPO 活動センターが学内の支援窓口として協力することとなりました。

また、それとは別に教職員や校友会や親和会等に対して、ボランティア・NPO 活動センターが窓口となって募金活動を展開することとなりました。

2. 概 要

募金活動は以下の①～③の内容にて実施しました。

①学内募金活動

○7月19日（木）～7月27日（金）の下記の昼休みの時間に、「有志の会」が3キャンパスに分かれて、学内で募金活動を行いました。また、有志の会では積極的に一般の学生にも募金活動への参加を呼びかけました。

- ・深草：12時30分～13時
- ・大宮：12時30分～13時
- ・瀬田：12時45分～13時15分

この期間に集まった募金は181,188円になりました。

②募金箱を設置

○7月19日（木）から8月6日（月）まで、ボランティア・NPO 活動センター（瀬田・深草）、学生部（瀬田・深草）、文学部教務課（大宮）、宗教部、生協（大宮・瀬田・深草）に募金箱を設置しました。

③その他募金

心の講座や文学部教授会、保護者会からも募金が寄せられました。

この①、②、③の募金総額は356,000円になりました。これらの募金は、10月25日（木）に募金に取組んだ本学学生の代表が京都府共同募金会に義援金を届けました。
ご協力いただいた皆様、ありがとうございます。

3. 募金活動に参加した学生からの声

- ・みんなが募金にとっても協力的で驚いた。
- ・何かしたいと思っていたけれど、何をしたらいいかわからなかったところに、学内で募金活動をしている姿を見て、自分にもできるこ

とがあると分かった。

等

4. コーディネーター所感

発災直後に、岡山県出身の学生を中心に他人事ではないと感じた複数の学生から募金活動に取組みたいとの相談や実際に現地で活動したいという相談がセンターに多数寄せられました。2011年から復興支援ボランティアに取り組んでいることもあり、学生達の間に大規模災害の際には「行動を起こそう」「いざというときにはボランティア・NPO 活動センターに相談できる」という雰囲気が醸成されてきているように感じています。

また、大学として講座等の実施や保護者会の際に募金箱設置や募金の呼びかけがなされるなど、学内でも何かあったら協力するという雰囲気があり、学生の想いに共感し、寄り添った活動が展開されたことは、事務局を担っていたセンターとしては非常にうれしいことでした。

〈報告者：竹田 純子

（深草キャンパス コーディネーター）〉

事業名	平成30年7月豪雨復興支援ボランティア活動
実施日／場所	2018年8月9日（木）～10日（金）1泊2日 岡山県倉敷市真備町
実施主体／運営	龍谷大学／ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	合計19名（学生15名／引率4名）
参加者名	馬場江理奈（文学4） 辻 祐児（法学4） 日野萌絵子（法学4） 平尾匡識（文学3） 森本拓樹（経済3） 石田進登（理工3） 加藤翔汰（農学3） 山下大智（文学2） 中村匡秀（社会2） 山崎大智（社会2） 楊 康輝（文学1） 井道友士（国際1） 山本夏帆（国際1） 田中里奈（農学1） 前川結佳（農学1） 引率教員：センター長 短期大学部教授 阪口春彦 引率職員：平井良和 引率コーディネーター：古澤登美代、上手礼子

1. 概要

平成30年7月豪雨の被災地では、生活再建に向けて、多くのボランティアの支援が必要とされています。龍谷大学では、8月9日（木）、10日（金）（一泊二日）の日程で、岡山県倉敷市の被災地にてボランティア活動を実施しました。

2. 活動スケジュール

○8月9日（木）移動日

13：00 龍谷大学出発

16：30 被災地到着、バスの中から被災状況を視察

18：00 岡山市内宿泊地到着
翌日の活動に向けて説明、注意事項の確認

○8月10日（金）活動日

8：30 倉敷市災害ボランティアセンター着、受付

倉敷市真備町下二万（しもにま）サ

テライトへ移動

9：30～14：00 ボランティア活動、途中昼食

16：00 入浴後、京都に向けて移動
バスの中で振り返り

19：30 京都着、解散

○ボランティア活動内容

倉敷市真備町下二万地区にある一軒のお宅で活動を開始しました。被災されたご夫妻の要望をお聞きしながら、庭に積もった泥、沿道の土砂の撤去作業、ごみ集積場への運搬作業等を行いました。

炎天下でゴーグルと防塵マスクをつけた作業は大変過酷でしたが、4回生の学生が自らタイムキーパー役となることを申し出てくれ、活動20分ごとに10分の休憩をしっかりとることを厳守しました。二階まで浸水した家は畳、ふすま、ドア、窓など、あらゆる家財道具が使用できず撤去されていました。ご厚意でそのお宅の中で休憩させていただき、ゆっくりと水分と塩分を補充できたおかげで、誰も熱中症にかかることなく活動できました。被災当日の状況や避難所での暮らしについてもお話を聞かせていただき、学生にとって本当に貴重な経験となりました。

3. 参加者の声

- 参加者アンケートや寄せられた声からの抜粋
- ・災害のレベルが自分の想像以上だった。テレビで見るのとは全く違っており、改めて水の怖さを知った。
- ・ボランティア活動先のご家族が私たちの体調を気遣ってくださった。手伝いに行ったのに温かいものをもらった。
- ・復旧に少しでも役に立ててよかった。被災された方と話をし、人と人とのかわりが大

切だと感じた。

- ・自分の街もいつ被災するかわからない。どう行動すれば生き残れるのかということを真剣に考え、家族とも話し合いたい。

4. コーディネーター所感

2018年は本当に災害の多い年でした。中でも豪雨災害の被害は甚大で、全国各地で被害が出ました。

猛暑の中での活動を行うため、熱中症対策が不可欠でした。水分補給と休憩をとることを徹底しました。途中、あまりの暑さに用意していた1人2本のペットボトルの飲み物では足りなくなり、買い出しに行くということもありましたが、全員が元気に活動を終え帰ってくることができました。

活動させていただいたお宅は2階の屋根まで浸水し、命からがら脱出されたという経験をされていました。自宅から持ち出せたものは自分の身ひとつという過酷な状況の中、一生懸命ご自宅を掃除しておられ、この場所で自宅を再建するので、また遊びに来て下さいと、おっしゃっていただきました。被災地での貴重な経験を通して、私達も常日頃からの備えや避難について考えておく必要があると身をもって学ぶことができたと思います。

〈報告者：上手 礼子

（瀬田キャンパス コーディネーター）〉



事業名	平成30年7月豪雨復興支援ボランティア活動 報告会
実施日／場所	2018年9月21日（金）12時45分～13時20分 瀬田キャンパス6号館プレゼンテーション室 2018年9月28日（金）12時25分～13時00分 深草キャンパス和顔館アクティビティホール
実施主体／運営	龍谷大学／ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	約50名

1. 概要

8月9日（木）～10日（金）の日程で岡山県倉敷市にて取り組んだ平成30年7月豪雨災害復興支援ボランティアの活動報告会を、瀬田・深草の両キャンパスで開催しました。

コーディネーターより取り組みの概要を説明し、参加学生が映像を交えながら感想や学んだことについて報告しました。

平成 30 年 7 月豪雨災害ボランティア 緊急募集！

2018年**8月9日(木)・8月10日(金)**
行き先:岡山県倉敷市 参加費:5,000 円

活動内容:一般家屋の退出し、家財の搬出など
募集人数:16名(男子8名、女子8名(先着順))
申込方法:電話、FAX、メール、センターに直接来場
◎受付:8月2日(木)9:00～17:00(メール、FAXも) 随時して下さい！

【電話】 深草:079-645-2047 瀬田:077-544-7252 (受付時間 9:00～17:00)
FAX: 深草:079-645-2044 瀬田:077-544-7261 (8月2日9:00より随時受付可)
Eメール: volunteer@ryugyu.ac.jp (8月2日9:00より随時受付可)
※お問い合わせは、岡山県倉敷市ボランティアセンター 事務局へ、必ず、連絡先、メールアドレスを記載下さい。

7月豪雨、岡山県倉敷市の被災状況の様子

主催: 龍谷大学 問合せ: 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター

平成 30 年 7 月豪雨 災害ボランティア 活動報告会

9/21 (金) 12:45～13:20
瀬田 6号館 プレゼンテーション室
9/28 (金) 12:25～13:00
深草 和顔館 アクティビティホール

7月豪雨に発生した岡山県倉敷市の被災状況、岡山県倉敷市復興支援センター、8月9日(木)～10日(金)の日程で16名の学生と4名の教職員がボランティアに行っていました。学生たちは研修会を経て活動報告を行います。ぜひ関心を持ってください。

【申込不要】 連絡先までお越しください。

延々と道路脇に積まれている土嚢やがれき、一面泥で埋めつくされている田んぼなどの様子を見て、想像を超える被害の大きさに、活動に参加した学生達は圧倒されていました。ボランティア活動を通して、実際に現地で被災状況に触れることで助け合うことの大切さを学んだこと、防災意識が高まったこと、被災されたご家族の方から被災時の状況を教えていただいたこと、私達の活動時に気配りもいただいたこと等を丁寧に熱心に報告しました。

現地の状況を知りたかった、本当は行きたかったが日程が合わなかった、など、報告会に参加した方達の動機はさまざまですが、被災地で活動してきた学生の生の声を通して、少しでも現地の状況が伝わったのではないのでしょうか。地震、豪雨災害など、災害の多発する昨今、いざというときに慌てることのないように、大切な命を守るのは自分自身であること、平常時から備えておくことの大切さを学生達と共に伝え続けていきたいと思います。

〈報告者：上手 礼子

(瀬田キャンパス コーディネーター)〉



2. 参加者の声

- ・水害の被害の状況がよく分かった。
- ・学生達の率直な感想が聞けて良かった。
- ・自分もボランティアに行きたいと思っていて、活動内容や、手続きの仕方がわかった。次は勇気を出して行ってみよう。

など、来場者から多くの感想が寄せられました。

また、報告を行った学生達から、「学ぶことが多かった。報告することで、今回の活動の振り返りをする事ができた。これからもいろいろなボランティアに参加していきたい」との感想がありました。

3. コーディネーター所感

活動に参加した学生達は、被災地での活動を通して感じたことを報告会に来ていただいた方に伝えられるように発表の準備をすすめ、どのように伝えれば自分たちの思いが伝わるだろうかと工夫を重ねていました。

がれきが山のように積まれた学校の運動場、

事業名	2018年度 その他大規模災害に係るボランティア・NPO 活動センターの動きについて
-----	--

1. 概要

2018年6月18日（月）の大阪北部地震発災直後からセンターでは、被災状況やボランティアに関する情報収集に取組み、ボランティア活動を希望する学生・教職員に対し、活動に関する情報提供と活動の際に必要なグッズの貸出を実施しました。また、同様に間をおかずに発災した平成30年7月豪雨についても同様の取り組みを実施しました。

2. 活動概要

○6月18日（月）

・大阪北部地震発災に伴い、全学休講

○6月21日（木）

- ・活動についての情報提供として、相談に訪れた学生・教職員に対し「活動情報の探し方」「安全に活動するために必要な知識」「ボランティア保険」等についての情報をまとめた「大阪北部地震災害ボランティアに参加する前に知っておいてほしいこと」を作成し、詳細を説明した上で配布。
- ・活動に必要な鉄板入りの長靴やヘルメットなどの貸出の開始。
- ・ホームページ、Facebook 等で情報提供やグッズ貸出について呼び掛け開始。
- ・発災直後から開催されている、大阪北部地震に対する支援活動をしている団体が中心に集まって実施されていた災害時連携会議に参加やメーリングリストへの加入等を通じて、情報収集に努め、被災した学生への情報提供や、活動を希望する学生・教職員に最新の情報を提供できるように努めた。

○7月10日（火）

- ・新たに、平成30年7月豪雨の災害ボランティアに関する情報提供のための資料を配布開始。

○7月11日（水）

- ・京都市社会福祉協議会との「大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」に基づいて、京都市災害ボランティアセンターが、実施する7月14日（土）、15日（日）、16日（月・祝）各日、日帰りの福知山市でのボランティア活動について募集を開始。

★15名申し込みがあったが、ボランティアバスが満席のため、5名が参加。

○7月12日（木）

- ・大津市社会福祉協議会との「災害ボランティアに関する協定」に基づいて、7月18日（水）に京都府北部でのボランティア活動について募集を開始。

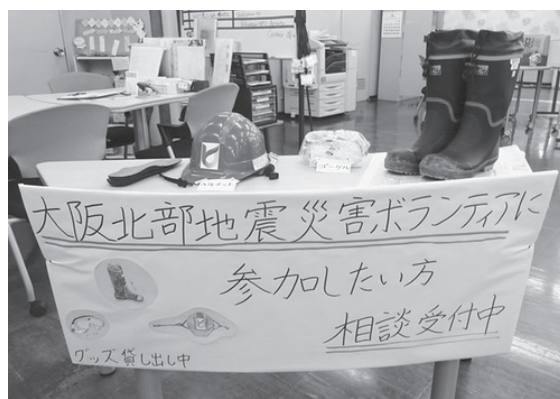
★授業実施日と重なっていたため参加者無し。

●災害ボランティアについての相談

6月～9月（深草）20件、（瀬田）8件 合計28件

●活動グッズの貸出

長靴、ゴーグル等を延べ 38人に貸出。



3. コーディネーター所感

大規模災害が時間をあまりあけずに続いて発災してしまったこと、大阪北部地震に関するボランティアでは、活動ニーズがブルーシート張り等の初心者ボランティアには難しい活動が多かったこともあり、ボランティア希望者の関心が豪雨災害に関する活動に傾いてしまった感があります。このことについては、もう少し工夫の余地があったのではないかと反省しています。

普段ボランティア・NPO 活動センターを利用しない学生が多くセンターに訪れ、災害ボランティアに関する相談や活動グッズが利用されたことなどから考えて、大学内で「災害⇒ボランティア⇒ボランティア・NPO 活動センターに相談」という意識がだいぶ根付いてきたように感じています。

災害は起こって欲しくはありませんが、避けて通ることは出来ません。今回のように立て続けに発災したことを目の当たりにすると、改めて、日ごろから備え、いざという時に臨機応変に動けるようにしておかなければいけないと実感しました。

〈報告者：竹田 純子

（深草キャンパス コーディネーター）〉